

◎夏の炎暑下の大会運営について

2016年6月

夏場の熱中症予防対策の一環で日本サッカー協会(JFA)から2基のWBGT(黒球式熱中症指数)計が貸与されました。

JFAが示したガイドラインによれば、その計測値が25度を超えたら『注意』、31度以上となった場合は『中止または開始してはならない』となっています。

WBGTは湿度にウェイトを置いた暑さ指数で、気温よりも4～5度低く出ると言われていています(小学校会場でテストした結果、気温より10度低く出たときがありました。数値が激しく変動するのが印象的でした)。

これを受けて世田谷少年サッカー連盟と東京都第5ブロックでは以下の要領で対応することにしました。

大前提として気象情報の週間予報(または前日の予報)で真夏日(30度超)や猛暑日(35度超)が見込まれる場合、

- (1) 当日の会場運営担当クラブに、試合ごとに開始前後のWBGT値を第4の審判の位置で計測、記録してもらいます。基準値を超えた場合は、立ち会いの連盟役員、審判団、対戦クラブ関係者で試合の可否を協議します。数値=中止ではありません。総合的に判断します。

気象庁発表の数値とグラウンドの実測値は同じではありません。私たちが指標とするのはあくまでもサッカーを行う場所での観測値です。

ただし、前日の気象予報で、想像を絶する高温が示された場合は前日または当日朝の時点で中止とする場合があります。夏場は週末の気象データに常に留意してください。

- (2) クラブの皆さんには当日の全選手の体調管理を徹底していただくため、下記のような『確認書』を当日の試合前に運営本部に提出していただきます。

睡眠が取れているか、微熱はないか、腹具合は大丈夫か、朝食は食べてきたか、などを全選手に具体的に確認の上、帯同のコーチと保護者の連署を求めます。

また、試合前の段階での水分補給が最も重要で、日本代表選手らと同様、喉が渇いていなくても家を出てから会場に到着するまでに、ちびちびとペットボトル1本分程度の水を飲むように指示してください。

そうして水のタンクを一度満たした後、ウォーミングアップで汗を流し、その後に水分を再補給すれば、とりあえず水分の準備はできたこととなります。

飲み過ぎは逆効果ですが、「飲みたくない」と言っても「一口だけ」は口に含ませるようお願いします。トイレが気になって水分補給を嫌がる選手（特に女子選手）には「時間は十分にあるから」と安心させてください。本部前に集合後でも、必要に応じて認めます。

(3) その他、子どもたちの健康（生命）を守るため、テントの増設などをお願いしますが、クラブの皆さんからも有効な対策のご提案をお願いします。

(4) 7、8月に限り、選手・審判の集合時間をキックオフ5分前にします。現在、10分前厳守となっている為、現実には12、3分前に集合しており長時間炎天下本部前に待機している状態を少なくするためです。すみやかなメンバーチェックを行うため、チームの待機場所で事前にすねあて、爪などの確認をお願いします。

(5) 試合会場にいる時間を少なくするため、試合終了後、小休止のあとすみやかに退場をお願いします。（昼食をとる場合を除く）基本的には次の試合のハーフタイムまでに。あと審判の方に対する配慮は、数名の保護者で対応してください。

1試合のみのチームが多くなり、来場チームが5割ほど増えます。待機場所不足することも理由の一つです。

*「確認書」は次ページにあります。

事前にプリントして当日持参願います。大会本部にも用意しておきます。

確認書

世田谷少年サッカー連盟・東京都第5ブロック殿

本日（ 月 日）緑地 G 会場 総合 G 会場（いずれかに○）での
大会参加にあたり、

- (1) 本日、来場した選手は試合ができる体調であることを確認しました。
- (2) その後、体調不良と思われる選手がいた場合は保護者とクラブの責任
で出場させません。また、試合中であれば交代させます。
- (3) ハーフタイム、給水タイム時には選手に必ず、水分をとらせることを
徹底させます。
- (4) 試合終了後、すみやかに退場します。

クラブ名

引率責任者

保護者 氏名 (自署)

担当コーチ 氏名 (自署)